

作成日：令和 3 年 10 月 30 日

### 放課後等デイサービスを始める動機について

私自身、これまでは障がい福祉というものを知ることも考える機会もなかった。

障がい福祉というものに初めて興味を持ったのは昨年、祖父が他界したときである。様々な方から祖父がこれまで行なってきたことを聞く機会があった。祖父は縫製会社の立ち上げ、地域貢献活動や奉仕活動など、多岐にわたる活動を精力的に行ってきた。

祖父の行ってきた活動で特に興味を持ったのが、「●●● (障がい福祉サービス等事業所)」の立ち上げである。祖父と共に立ち上げをおこなった方から、立ち上げに携わろうと思った当時の背景や思いなどを聞く機会があり、とても社会貢献性が高く意義のあることをしていたのだと初めて知った。加えて私の従兄弟が障がいを抱えているということも相まってさらに関心が高まった。

従兄弟がどのような障がいを抱えているかを聞いたところ、「発達障害」という言葉が返ってきた。発達障害というワードは聞いたことはあるが、そもそも何なのか全く分からなかった。なので、そもそも発達障害とは何なのか、またどれくらいの方がそのような障がいを抱えているのか、どのような悩みを抱えているのか、ということが気になりリサーチした。

その結果、年々発達障害であると診断される方の割合が高くなっているという事実が判明した。また子どもに限って言えば、2012年の少々古いデータではあるが、6.5%の子どもたちが、何らかの障がいや問題（学習時間での問題、不注意または多動性・衝動性の問題、対人関係やこだわり等の問題など）を抱えているという事実を目の当たりにし、とても衝撃を受けた。

また植草学園短期大学の研究によれば、約 8 割の保護者が「高校卒業後に継続して支援が受けられるか心配」とあり、今の放課後等デイサービスについて不安に感じている。実際、福山市内の放課後等デイサービスをみても、感覚統合や SST などの療育を促すようなカリキュラムを提供している事業所は多く見受けられるが、就労準備支援や就労移行支援、また就労場所の提供まで行なっている事業所は極めて少ないことがわかった。

そこで当施設では周囲の自然を存分に活かした「心」「技」「体」を満たせるような専門的な療育を行いながら、子どもたちの将来を見据えた自立・就労準備支援を行える施設運営を行う。また障害児通所支援事業が軌道に乗ったあかつきには、一般就労が難しい方に向けて就労移行支援事業や就労継続支援 B 型事業も行っていく予定である。これにより放課後等デイサービスの利用者の将来的な受け皿を提供できるという観点でも、当施設を利用いただく保護者様に一定の安心感を提供することができると思う。

当施設の理念（想い）としては

**子どもたちの個性を尊重し、興味・関心の幅を広げ“できる”を増やし、「子ども」「親」「当施設」三位一体となった指導・教育により、子どもたちの将来的な自立を支援する**

というコンセプトを掲げ、施設名を「放課後等デイサービス カイト（KITE）」にした。

※施設名の由来※

**K**ids（子どもたち）

**I**ndividual（個性・特性）

**T**rust（尊重・信じる）・**T**rinity（三位一体）

**E**ducation（教育・支援）

社会福祉業界での事業はもちろん初めてで、正直右も左もわからない状況である。しかし、上記の理念が我々に課されたミッションであり、達成のためには、たゆまぬ努力と挑戦を続けていく。

以上のことから有限会社コルドバは放課後等デイサービスの開設を行う。